
マッハBAR！BAR！BAR！

久保田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マッハBAR!BAR!BAR!

【Nコード】

N4066T

【作者名】

久保田

【あらすじ】

今宵、君は新感覚ハイスピードレースを目撃する。

二人の愛はまさにエキゾチックマニユーバ。

草木も眠る丑三つ時。

しかし、峠を走る狼達の夜は終わらない。眠れる森に鳴り響くエギゾーストノート。アスファルトを焦がす熱量。

速度は慣性すら引き離し、正面へと加速しながら横に走るという矛盾を生み出す。

繰り広げられる限界超高速バトルは、世界を置き去りにし続ける。

コーナーを立ち上がって、最後のストレート。

誰一人として諦めてはいない。目には燃え盛る炎。一瞬の油断で全てが終わる。

だから、ケンジは更なる速度を求めた。

「この皺くちな肌は俺の心を惑わせる」

ドキン！

婆のハートはショート寸前。耳元で囁かれるケンジの囁きは婆の心臓の鼓動を加速させた。

吐き出される排気音は荒々しく、ケンジと婆はいよいよトップギア。

「朝まで何回、キスされたいか……考えておけよ？」

ドキドキン！

ケンジの声が婆。いや、節子の遠い昔に無くしたはずの乾いた恋心に染み渡る。

人を捨て、旦那を捨て、孫も捨て。

速度のみを求め、ターボ婆になった節子だというのに雄を求めるのは、雌の浅ましき本能か。

イケメン達を背負った、各ターボ婆達は一塊となり、ゴールへと向かう。
足の動きはすでに常人の目には映らぬ領域。 高速絶速の足運びは残像すら残さない。 のろのろと歩いているだけにしか見えなくらいだ。

「……………」

だが、節子の婆器官はそれを捉えた。
背後より迫り来る奴を捉えた。
奴の名はヨネ。 最強最速。 ターボ婆を超えるマツハ婆の名を手にした雌である。
だが、今宵の節子とてケンジを背に乘せている。 婆回路のときめきでは負けぬはずだ。

——だが、敵は最速マツハ婆。

音を超える。 それは背にしたイケメンの囁きすら置き去りにするという事。

ゆえに理論最高婆速度は音速未満とされて来た。 イケメンの囁きが無ければ、婆回路は燃え上がらないのだ。

しかし、ヨネは違う。

節子はその目でマツハ婆ヨネの魔技を、まざまざと見せ付けられる事になった。

ヨネのしわくちな手が蠢く。 背中に背負ったイケメンの身体を這いずりまわる。 毛虫が這うように、淫靡に。 その婆ハンドの動く様は何と卑猥な事か。
節子は思う。

——愛がない……！

ヨネはイケメンを貪っているだけなのだ。

ヨネの一方的な蹂躪はイケメン達の心を傷付け、彼らの下半身事情を悪化させる。 勃たなくなるのだ。

——認められるはずがなろう……！

だが、現実には節子がヨネの背を拝む事となっている。

百分の一秒もかからぬ内に全ての婆を、ヨネは全て抜き去った。

節子は失ったはずの齒を食いしばった。

ターボ婆節子は、所詮は金の関係であるケンジと”お楽しみ”する気にもなれず、街を時速70kmで流していた。 300kmを超える婆にとってみれば散歩にもならない。

そして、節子は運命。 Fateと出会う。

目と目が合った瞬間、節子と彼は互いを求めた。

確かに彼はイケメンではない。 だが、彼は節子を求めている。

金の関係ではない。 節子を愛した目であった。

一目惚れに時間も年齢も関係はない。
必要なのは、ただ一つ。

確かな愛が、二人の間にはあった。

節子、生涯のパートナーTERUとの運命の出会いである。

寄せては返す波打ち際。

「あはははっ、待てよ！ 俺の子猫ちゃあーん！」

「ぐへへへへ、捕まえてみんしゃあい！」

「ちょ、マジ待って！ はやっ！」

婆は恋をしちゃうと、ついつい婆回路のときめきブーストしちゃうんだ♪

そして、婆は帰って来た。

真の愛を知らしめるために。

夜の最速婆決定戦へと帰って来た。

「うえっへっへ……節子や、尻尾を巻いて逃げ出したのかと思ったぞえ……。
まあ貴様のような婆が帰って来た所で、儂のマツハ婆の座は譲ら
んがのう」

すでにヨネは臨戦態勢。

イケメンの身体を小脇に抱えて弄りまわす（ショルダーバック走法、利点としてイケメンの身体を弄る事が出来るヨネオリジナルである）。

そのおぞましき感触にイケメンは涙していた。

「ふっ……マツハ婆の名などいらぬて」

ヨネの全てが不愉快だった。

だが、今宵の節子はヨネに哀れみすら感じていた。

何故なら背中に背負うは愛。オーソドックスなストロングスタイル（イケメンをおんぶする走法である。風圧を婆が受け止める事により、イケメンへの負担を減らす。欠点としてはイケメンの顔が見えない）

節子とTERUの心は一つ。この人婆一体の境地を知らずして婆道を生きるとは……。節子はヨネに初めて悲しみを覚えた。

「TERUや……。あたしゃあんたのためならマツハ婆を超えるさ」

「ああ、今日の節子はエキゾチック婆だ」

赤い一つ目のシグナルが灯る。

「俺に」

二つ目。

「あたしに」

三つ目、青。

「「ガイアがもっと輝けと言っている!」「」

二人は音速を超えた。

（後書き）

中盤くらいから自分の人生に悩み始めました。
代わりに誰か続き書いてもいいのよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4066t/>

マッハBAR！BAR！BAR！

2011年9月1日06時20分発行